

みやざき水ビジョン (2025-2034)

概要版

宮崎市上下水道局



『安全・安心』で『強靱』な上下水道を未来のみやざきへ
～時代の変化を見据えて進化し、持続可能なサービスを！～

●みやざき水ビジョン2020の基本理念

「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」を掲げ事業を推進してきたが・・・

■前計画の策定

2019年:『宮崎市上下水道局経営戦略』
2020年:『みやざき水ビジョン2020』

■社会の潮目の変化

2020年:新型コロナウイルス感染拡大
2021年:物価高・原油価格高騰
2024年:能登半島地震の発生

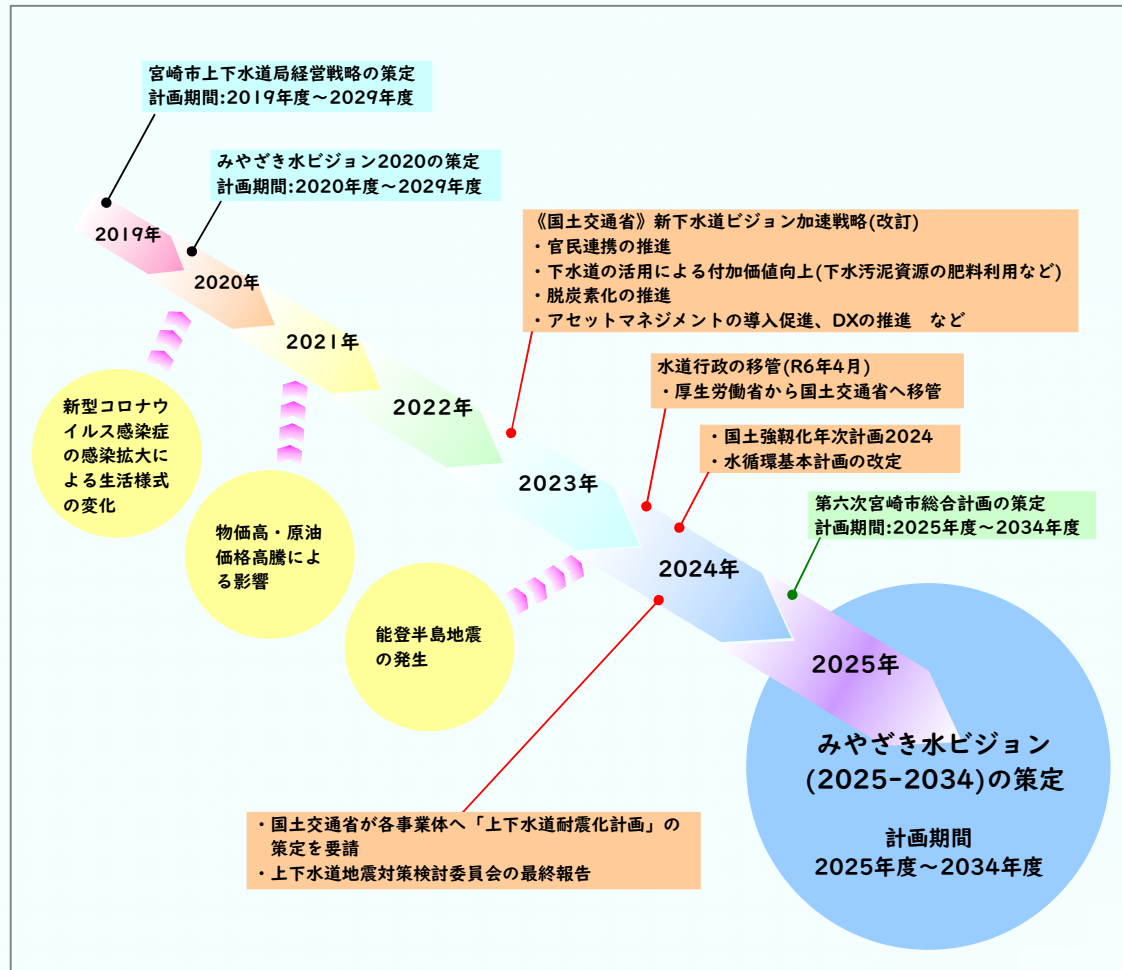
■災害危機等への対応

2023年:新下水道ビジョン加速戦略(改訂)
→GX・DXの推進
2024年:上下水道耐震化計画の策定要請

■みやざき水ビジョン(2025-2034)策定

前計画(ビジョン・経営戦略)を統合

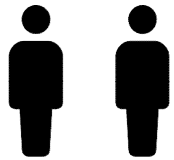
本市の上下水道事業を次世代へつなぐ



■人口減少に伴う収益の減少

宮崎市の人口は2050年には35万人を下回る予測・・・

令和5年度末人口と比較して



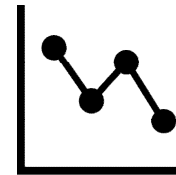
4.6
万人

減少

※第六次宮崎市総合計画の将来推計人口モデルによる予測

人口減少は給水収益や下水道使用料にも影響

計画期間の10年間で



約

3

億円

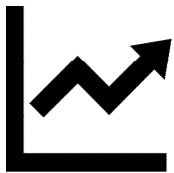
減少

※R7とR16末値を比較した際における給水収益と下水道使用料の平均減少額

■社会情勢の変化による事業費の増加

铸铁管や塩化ビニル樹脂、配管工事用附属品など
事業に必要な資材の物価指数は・・・

直近の5カ年で



約

1.5

倍

増加

※企業物価指数をもとに算出
（企業間で取り引きされる商品の価格を指数化したもの）

水需要の減少を前提とした

事業運営

が必要な状況！

みやざき水ビジョン（2025-2034）基本理念

『安全・安心』で『強靱』な上下水道を未来のみやざきへ
～時代の変化を見据えて進化し、持続可能なサービスを！～

目指すべき4つの方向性と取組内容

安全

水源の保全や水づくり、下水処理における水質管理の徹底などにより安全で快適な生活環境の実現をめざします。

強靱

南海トラフ巨大地震などの災害発生に備えた施設の耐震化・耐津波化や危機管理体制の強化に加え、浸水対策による大雨被害の軽減などをめざします。

持続

経営環境の変化に対応した健全かつ安定的な事業経営や更なる官民連携による効率的な事業運営の実現などをめざします。

進化

上下水道施設のデジタル技術の導入・推進や省エネ化や脱炭素化による環境に配慮した水循環システムの実現をめざします。

強い紐付け



第六次宮崎市総合計画

挑戦し、成長する開かれたまち
～ OPEN CITY MIYAZAKI ～

1 経済の姿

【主な分野】経済・産業・雇用・都市基盤・総合交通
「時代の変化を見据えて成長し、世界に開かれているまち」

2 ひとの姿

【主な分野】健康・医療・福祉・共生社会・市民活動
「多様性を認め、互いに支え合うみんなに開かれているまち」

3 未来の姿

【主な分野】子ども・子育て・教育・環境・防災
「明日への希望にあふれ、未来に開かれているまち」

基本理念

目指すべき4つの方向性

実施方策

上下一体の構成



安全

水源の保全や水づくり
下水処理における水質管理など

強靱

災害発生に備えた施設の耐震化・耐津波化危機
管理体制の強化など

持続

経営環境の変化に対応した健全かつ安定的な
事業経営や更なる官民連携など

進化

上下水道施設の省エネ化や脱炭素化による環
境に配慮した水循環システムの実現など

『安全・安心』で
『強靱』な上下水道を
未来のみやざきへ

～時代の変化を
見据えて進化し、
持続可能なサービスを！～

1 安全で良質な水の供給

2 生活排水の確実な処理

1 水道施設の更新・耐震化

2 漏水対策の推進

3 公共下水道施設の老朽化対策

4 公共下水道施設の耐震・耐津波化

5 浸水対策の推進

6 工業用水道施設の更新・耐震化

7 農業集落排水施設の老朽化対策

8 危機管理対策の推進

1 人材育成と技術継承の推進

2 広域化等の推進

3 官民連携の推進

4 経営体力の強化

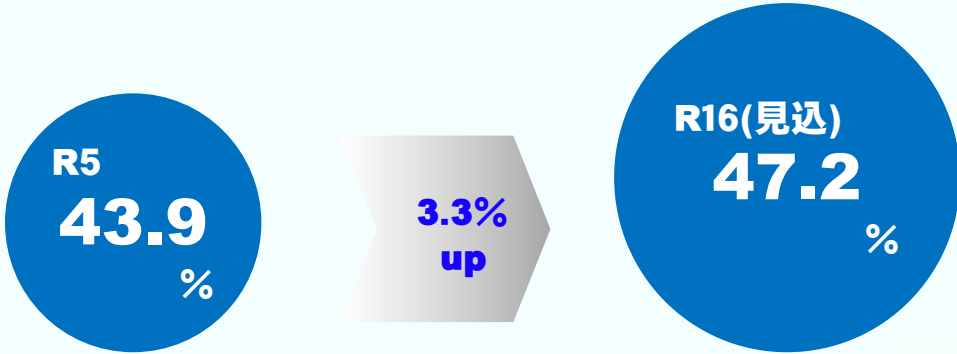
5 お客さまサービスの向上

1 DXの推進

2 GXの推進

水道事業	計画期間中の事業費見込
下北方浄水場大規模改修事業	約33億円
柏田水源地更新事業	約31億円
下北方配水池整備事業	約16億円
富吉浄水場更新事業	約37億円
富吉水源地更新事業	約50億円
生目台送水管更新事業	約51億円
幹線管路耐震化事業	約72億円
経年管更新事業	約88億円

■成果指標【基幹管路の耐震化率】



公共下水道事業	計画期間中の事業費見込
耐震・耐津波化事業	約95億円
改築更新事業	約295億円
浸水対策事業	約69億円
GX(モデル処理場計画)事業	約71億円

※下記2つの成果指標は本編：P 8 8「成果指標一覧」より抜粋

■成果指標【重要な幹線等の耐震化率】

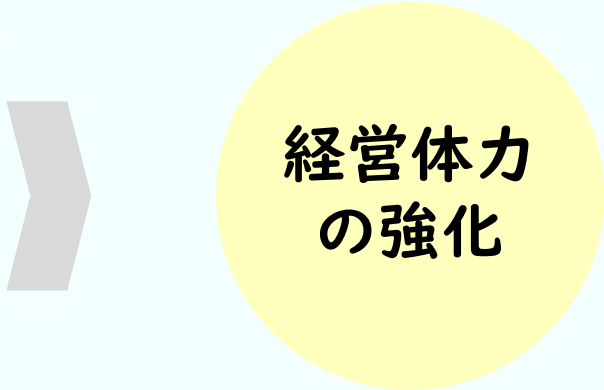


■みやざき水ビジョンの財政マネジメント

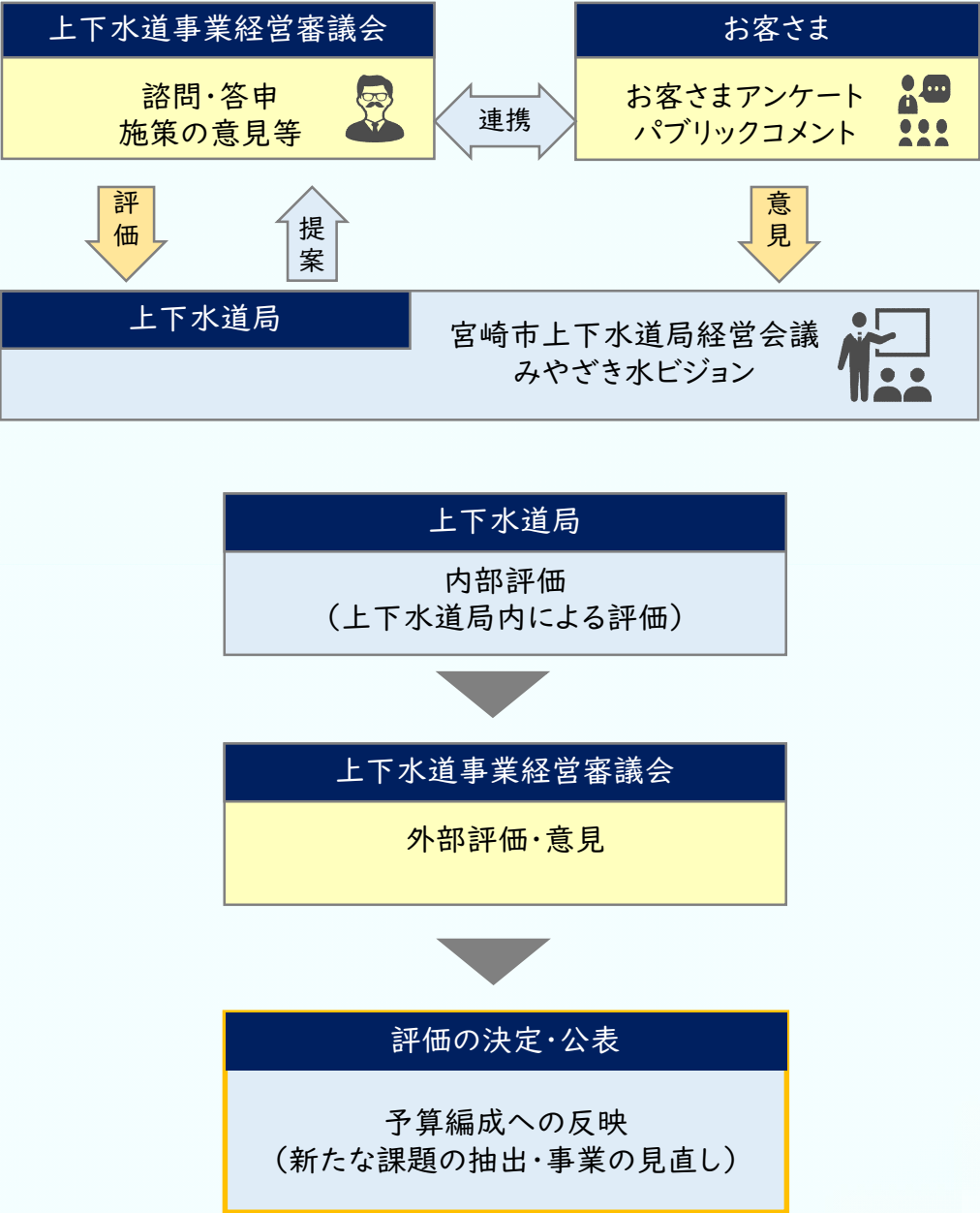
投資・財政計画のモニタリング

毎年のローリングで適正且つ効率的な維持管理・事業費試算と実践

5年毎を目途に適正な料金の検証・検討



項 目	水道事業	公共下水道事業
経営目標	1 当年度純利益の確保	1 当年度純利益の確保
	2 企業債残高の減少	2 企業債残高の減少
	3 運営資金30億円以上の確保	3 一般会計繰入金の抑制
財政の将来予測	1 給水収益 人口減少、節水型社会の定着等により引き続き右肩下がりで減少	1 下水道使用料 人口減少、節水型社会の定着等により引き続き右肩下がりで減少
	2 企業債残高 プライマリーバランスを厳守し、年平均2億円減少で推移	2 企業債残高 プライマリーバランスを厳守し、企業債の新規発行抑制により減少
	3 資金残高	3 一般会計繰入金
	災害等の発生に備え、毎月の業務活動費の3ヵ月分と企業債の償還1回分に当たる約30億円を目安に確保	R7年4月の使用料改定により、一般会計繰入金の減少が見込まれるが、引き続き経営改善等により抑制に取り組む

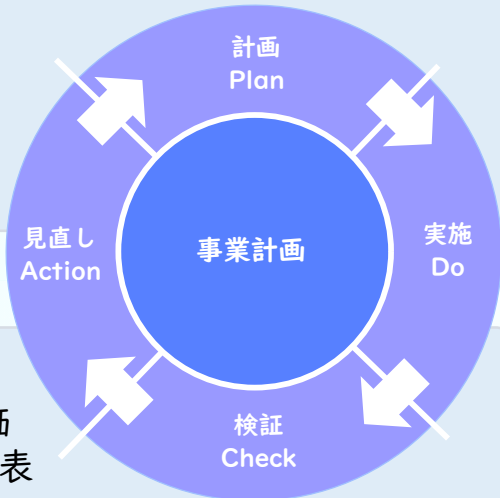


■施策評価を実施

関係機関を通しての協議
施策の評価・検証

■PDCAサイクル

課題の抽出・見直し
新たな施策
継続的な改善



■施策評価の方法

内部評価と外部評価
ホームページへの公表

事業の透明性を確保